

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合性能評価システム 建築環境総合性能評価システム 名古屋版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	KTC 3rd ビルディング	階数	地上7F
建設地	名古屋市名東区姫若町1-1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	280 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年12月1日
敷地面積	942 m ²	作成者	
建築面積	740 m ²	確認日	2022年12月6日
延床面積	3,464 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 限られた敷地の中で、駐車台数を最大限確保し、広い執務室の確保と社員がリラックスできる緑のある屋上庭園を計画し、働きやすいオフィスを目指した。1階にピロティ式駐車場を計画し、歩行空間への通風に配慮した。2階には社員のための多目的スペースを設け、屋上庭園を併設した。3階から7階を執務空間とし、柱を中心に落とさない広々とした空間を実現した。		その他
Q1 室内環境 近くに高速道路があり、騒音が懸念されるため、遮音性能に配慮した。また、内装仕上げ材はF☆☆☆☆を全面的に用い、照明制御などを採用し快適なオフィス環境を目指した。	Q2 サービス性能 執務室の南側はリラックスできるスペースとし、机と椅子が整列した空間との差別化を行った。内装検討は3Dモデルを用い、パースを作成し事前検証を行った。BCPの観点から耐震性能を25%割り増し計画を行った。	Q3 室外環境(敷地内) 1階をピロティ式駐車場とすることで歩行空間への通風に配慮し、直射日光を受ける舗装面を少なくした。2階の屋上庭園には木々を植え、リラックスできる空間づくりを行った。
LR1 エネルギー 多くの開口部を設け、自然光を取り入れるように配慮した。屋上には太陽光発電を設置し、自然エネルギーの活用を計画した。	LR2 資源・マテリアル 主構造に鉄骨造を採用した。	LR3 敷地外環境 周辺交通状況を十分に考慮し、安全な駐車場・駐輪場計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

KTC 3rd ビルディング

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.0
LR1	エネルギー	3.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.0
2. 自然共生	評価点 = 3.2
3. 循環型社会	評価点 = 2.9

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。